

高等教育のための情報リテラシー基準（ドラフト）

前文

21 世紀は知識基盤社会であると言われている。知識基盤社会において「情報」は、知識や技術とともに社会のあらゆる領域で発展の基盤として飛躍的にその重要性を増している。グローバルに技術革新が行われ、変化する社会を生き抜くためには、常に新しい知識、「情報」を入手し、それをもとに生涯学び続ける力が重要となる。

学び続ける力の中心となるのが、さまざまな情報源から発信される情報を利活用する情報リテラシーである。これは、学習者が主体的な人間として世界と対峙し、21 世紀を豊かな社会としていくために求められる、問題解決力、論理的（批判的）思考力、創造的思考力の基盤となる能力でもある。

1. 情報リテラシーの定義

情報リテラシーは、情報が必要なときにそれを認識し、計画的に情報を収集、評価、整理、管理し、情報を活用して効果的に発信することができる能力である。

なお、類似の概念として、ICT リテラシー、メディアリテラシー、ビジュアルリテラシーなどがあり、これらは扱うメディアと取り組む視点の違いにより独自の領域を持つ。

2. 情報リテラシー基準の使い方

この基準は、高等教育において必要となる情報リテラシーを示すものである。主に高等教育の場で用いられることを想定しているが、必ずしも大学など高等教育を受ける学生だけでなく、情報を活用しようとする人々が社会の様々な場において用いることも可能である。

この基準の適用にあたっては、それぞれの高等教育機関の機能や特性を考慮し、目的に合わせた使い方が求められる。その際には、必要に応じたカスタマイズも必要である。また、次のように使用する人の立場によっても違った形で使われることになる。

(1) 学生

学士課程及び修士、博士課程前期で学ぶために身につけるべき情報リテラシーに関する能力、スキルの水準を示すものであり、情報収集からレポート作成、論文執筆までの過程に求められる自身の知識・スキルを把握し、向上させるための目安として活用できる。

(2) 教員

学生が高等教育における専門的な学習に進むための基礎となる情報リテラシー教育を計画し、学生の情報リテラシー能力を評価する基準となるもので、学習目標の設定やシラバスの作成、また、ルーブリック¹の作成にも活用できる。

¹ ルーブリック（Rubric）とは、レベルの目安を数段階に分けて記述して、達成度を判断する基準を示すものである。（熊本大学 公開科目「基盤的教育論」）

(3) 大学経営者

学士課程教育における質保証のための一つの基準となる。情報リテラシーを身につけた学生の育成は、主体的な学習の促進に繋がる。

(4) 図書館員

図書館が情報リテラシー教育を行う際の目標設定に活用でき、図書館員が、学生への体系的な情報リテラシー教育を企画、実施し、その成果の評価をする基準となる。また、授業など教員との連携においても学習目標や到達目標の共有が図れ、人的支援やコンテンツの活用など、図書館の持つ機能を十分に活かすことができる。

4. 情報リテラシー基準

情報リテラシーを身につけた人は、次のフェーズからなるプロセスを経て情報探索行動を行う。これは必ずしも直線的な過程を取るものではなく、いくつかのフェーズを往復しながら進んで行き、最後の創造的活用・発信から新たなニーズ・課題の認識へと繋がる円環を繰り返していくことになる。それぞれのフェーズで求められる能力は、置かれている環境や情報探索者の保持する能力によって違い、次第に高いレベルへと移行していくことになると考えられる。

第1フェーズ 情報ニーズ・課題を認識する。

情報ニーズを明確に示すことができ、必要となる情報の範囲を具体的に定めることができる。

- 1.1 課題を正しく認識する。
- 1.2 課題に対処するために必要となる情報を認識する。
- 1.3 現時点で持っている情報を認識する。

第2フェーズ 情報の適切・効率的な探索を計画する。

情報ニーズを満たす情報を経済的、合法的、社会倫理的に適切で、かつ、効率的に探索する計画を立てることができる。

- 2.1 一般的に得られる情報の種類や特徴を理解する。
- 2.2 情報がどのように生成し、流通するかを理解する。
- 2.3 求める情報へのアクセスの方法及び入手を助けるサービスを理解する。
- 2.4 情報を探索する際の適法性、社会倫理への適合及び経済的合理性を理解する。

第3フェーズ 情報を適切・効率的に入手する。

情報を入手する手段を活用して、情報ニーズを満たすために必要な情報を適切、効率的に入手することができる。

- 3.1 図書館や情報入手を手助けするサービスを効果的に利用する。
- 3.2 情報の種類に応じて、適切なアクセス手法や検索ツールを用いる。

- 3.3 必要な情報を探ることができる検索スキルを身に付ける。
- 3.4 情報を正しく読み、情報ニーズに照らし合わせて取捨選択する。

第4フェーズ 収集した情報を評価・分析し、整理・組織する。

情報ニーズを満たす情報を評価・分析し、適切なツールを使用して情報を整理・組織することができる。

- 4.1 収集した情報やデータを信頼性、関連性、正確性などの点から評価・分析する。
- 4.2 情報を文献管理ソフトウェア等のツールを用いて適切に整理、記述し、活用できるように組織することができる。

第5フェーズ 知識体系を再構築する。

情報を批判的に自らの知識体系に組み込み、知識体系を再構築することができる。

- 5.1 情報を自らの知識体系に照らし合わせ、批判的に組み込む。
- 5.2 新たな情報を組み込むことで、自らの知識体系を再構築する。

第6フェーズ 情報を創造的に活用し、発信する。

情報を合法的、社会倫理的に適切にかつ創造的に活用し、発信し、情報を用いたコミュニケーションを行うことができる。

- 6.1 情報を利用する上で必要な法的な知識を持つ。
- 6.2 情報を発信する対象やコミュニティに相応しい形式を理解する。
- 6.3 情報を発信するために必要なスキルを持つ。

